【授業科目】母子支援看護学演習Ⅱ(小児看護学支援論)(小児科目)　Advanced Seminar of Child and Mother Health　Nursing Ⅱ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
別所 史子、増田 由美	１年次 後　期	選　択	２	６０	演　習	巻末 掲載

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	子どもをとりまく社会全般、保健・医療・福祉・教育の現況を概観し、子どもと家族のライフステージ各期の健康課題に関する論文などを通して母子支援看護学の基盤となる主要な概念や理論を学修するとともに、先行研究の知見を整理し、子どもらしい生活、家族らしい生活を支えるための支援方法を探求する。 対象の権利擁護のあり方を、各種指針、意思決定モデルなどを活用して、倫理的課題を整理する方法を学修する。 授業は実務家教員（別所、増田）が進める。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／それぞれの課題について学生とともに検討し、適宜コメントする。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、③の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	１．子どもと家族への支援の基盤となる主要な概念や理論を説明できる。 ２．ライフサイクルにおける子どもと家族の健康課題を整理し、考察できる。 ３．病気や障害をもつ子どもと家族のライフサイクルの特性、親子の関係性の変化、支援の方策について説明できる。 ４．小児看護領域における緩和ケアの定義、対象の特性と必要な看護援助について説明できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	テーマに関する資料の講読、研究論文の検索、文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成する。 授業の振り返り、次回授業の準備に各回４時間の学習を要する。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　オリエンテーション 最近の母子支援看護学分野の研究動向を概観し、文献を批判的に検討していく 研究テーマに関連した文献、その他資料を収集・講読し、ディスカッションを通して、自身の研究テーマを焦点化していく 第 2～5 回　現代における子どもと家族を巡る健康課題（保健・医療・福祉・教育において） 社会の変化と子どもと家族に関する法律や条約の動向、その背景 第 6～8 回　子どもと家族への支援(1)　子どもの権利、小児看護における倫理、意思決定支援 子どもの権利擁護、小児医療における意思決定とその支援に関する文献検討 第 9～11 回　子どもと家族への支援(2)　子ども虐待と看護 子ども虐待と看護に関する文献検討 第 12～14 回　子どもと家族への支援(3)　Patient（Persons）-Family-Centered Care 小児看護における Patient（Persons）-Family-Centered Care に関する文献検討 第 15～17 回　子どもと家族への支援(4)　小児緩和ケアと小児看護 子どもの痛み、緩和ケアに関する文献検討 第 18～20 回　子どもと家族への支援(5)　障害児看護とノーマライゼーション 地域における障害児の発達支援、就園・就学支援、卒業後の生活への支援に関する文献検討 第 21～23 回　子どもと家族への支援(6)　移行期医療（トランジション）と移行支援 成人医療への移行期、AYA 世代の人々の課題、支援に関する文献検討 第 24～28 回　子どもと家族への支援において有用な概念や理論とその研究成果を整理する 今後の自身の研究において重要と考える概念、測定尺度、理論と研究への活用可能性の検討 第 29～30 回　まとめ 母子支援看護学分野における課題の整理および自身の研究課題の明確化	全て 別所 増田
評価方法 評価基準	授業参加態度 25%、プレゼンテーション 25%、レポート 50%とし、総合的に評価する。

教科書	特になし	参考書等	授業のなかで適宜紹介する。